

2020年5月14日

横浜市長
林 文子様

カジノ・IR 事務事業の停止を求める再度の意見書

カジノを考える市民フォーラム共同代表
一般社団法人勁草塾代表理事 齋藤 勁
横浜地方自治研究センター理事長 岡・真人
生活クラブ運動グループ横浜未来アクション
共同世話人 若林 智子

私たち「カジノを考える市民フォーラム」は、4月9日貴職宛てに、「カジノ・IR 事務事業の停止を求める意見書」を提出しました。意見書は、主に新型コロナウイルスから市民の生命を守るため、事業を停止し、その予算をコロナ対策に振り替えることを求めるものでした。

この意見書に対する貴職からの回答（4月22日付）は、実施方針などの公表を8月に遅らせるが、「市民の皆様への説明を行いながら、知恵を出し合い、進め方を工夫し、事業を進めて行きます」との内容で、聞いたけれど方針は何ら変わりません、というものでした。

そして、5月12日の横浜市会本会議での、「コロナ禍でも、「事業停止を考えず、市の経済活性化策」として推進していく旨の、答弁内容も報道されています。

私たち、そして多くの市民の声が実現できず、甚だ残念です。

さて、5月13日にラスベガス・サンズ会長兼 CEO アデルソン氏は、「日本以外での成長機会に注力する」と、日本市場・横浜への参入を見送ることを明らかにしました。

言うまでもなく、新型コロナウイルスは世界中に蔓延し、中でもアメリカが感染者・死者の数が最も多く、この影響でアメリカ国内のカジノ事業は停止したままです。今回、ラスベガス・サンズは日本への進出を断念しただけでなく、事業の存続すら危機的とも言われています。横浜市が市民説明会で、お手本のように話していた、シンガポールのマリーベイ・サンズは、この会社が経営しています。

そこで、改めて以下の内容について、横浜市長にお尋ねします。

1. 多額な投資を表明していたラスベガス・サンズが撤退しましたが、市長は依然として、カジノ・IR 事業を推進していくことを表明しています。大変厳しいコロナ禍の状況の中で、ラスベガス・サンズ以外の事業予定者の経営状態を把握されているのでしょうか。

2. コロナ禍により、長期の景気の停滞が想定される中、民間投資による IR 事業には大きな懸念が生じています。ラスベガス・サンズの撤退により、これまで市長が、議会や市民説明会で発言していた進出事業者からの投資額、収支、横浜市への財政的寄与に違いは生じませんか。このままで宜しいとお考えなのでしょうか。
3. 世界大恐慌以上の景気後退と言われる中、カジノ・IR 事業だけでなく、本来は市政全般を見直していくべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。取り分け、観光政策は重要としつつも、「人の移動が長期的に制約されることが想定される」中では、過度な依存は限界があります。基本戦略を練り直していくべきと考えますが、いかがお考えでしょうか。
4. 新型コロナウイルスから市民の生命を守るため、今はその対策に全力を傾注すべきです。即時にカジノ・IR 事業を停止し、その予算・人的配置も含め、振り替えるべきと、再度強く申し入れます。